明日のまちづ

市民に喜ばれるまちづくりが一番

●民秋徳夫（向日市長）
●笹野貞子氏（堺女子短期大教授）
出席者
●藤田邦昭
●中路融人

笹野　市長さん今後のまちづくりに〝定住型都市〟という基本構想があるわけですが。

市長　そうですね。都市の景観は人のつくりだす文化だと思っています。そこに住んでいる人が、やすらぎとかうるおいを暮らしの中で感じる。そして、また自分たちの暮らしに喜びと誇りをもてるような、住んでよかったといわれるようなまちにしたいと思っているんですが。そのためには、駅前とか街路とか、下水、また文化的な施設の整備とか。

笹野　このまちに文化的な建物といえばどんなものが建つ構想があるんでしょうか。

市長　この地は長岡京を始め、非常に歴史的な文化遺産が多いということで、寺戸町南垣内の市有地に京都府が埋蔵文化財調査・研究センターと文化資料館を。市としては図書館を建てたいと考えています。ふるさとの文化遺産等を展示して、愛護の精神をもっていただいて、新しい文化創造の拠点にしたいと思っているんですが。

笹野　ここには、知られない文化がたくさんあるんですね。それがどうやってみんなに知られるかということが大事ですね。つまり市民文化です。その点で、いまそういう場ができているということはとても嬉しいことです。中路先生どうでしょう。

中路　私はいまのお話に大賛成で、とにかく住民不在で物ことをやっても、本当のものは実らないと思います。住民に愛されて、一番利用しやすい施設をつくることが大切だと思います。みんなが振りむかないものを、いくら立派なものをつくっても意味ないと思います。

笹野　藤田先生には向日市のまちづくりでお世話になっているんですが、これからの向日市について、古いいいものを残しながら、何を変えていったら最もいいまちづくりができるとお考えですか。

藤田　その点が一番むずかしいところですが、古いものをそのまま保存しろというのは無理な話で、単に保存というだけでなく、何か今日的な意味をもたしたような残し方をみんなが知恵を出して考えていかなければならないですね。

笹野　先程、基盤整備といわれましたけど、いま下水道工事が市内でさかんに行われておりますが。どうなんでしょう、進み具合は。

市長　下水道事業については四十九年から始めて、五十五年の秋に一部供用を開始しました。七十年には一応全地域普及したいと考えているんですが。道路なんかも狭く、幹線がないので、工事等も非常にしにくい面もあるんですが。

笹野　駅前の整備ができましたら、本当にすばらしいことなんですが。

藤田　はい、現在の駅前は日本国中どこに行っても同じようなパターンになっているんでここは何とか特色のあるものにしないといけないなと思って頑張っているのですが。

笹野　最後に、将来の夢というか、未来に対する希望というか、何かありましたら。

中路　私は、このまちにもう一度行ってみたいなという気持になるようなまちになってほしいですね。そして、全国的に〝向日市〟の名を広めたいですね。いい意味でね。

笹野　藤田先生はどうでしょう。

藤田　前にも話しましたが、市民のみんなが一緒に知恵を出しあって、小さいことを丹念に積み重ねていくことが大切です。他のまちにはちょっと真似のできないことでして、このまちでは可能だと思います。

市長　住みよいまちにするには、生産と消費の両面がうまく調和しなければ基盤が弱いわけです。まあ財政的な問題はあるにしても、自分たちのふるさとだから、何とかみんなに喜んでもらえるようなまちにしたいと思っているんですけど。

笹野　そうですね。市民に喜んでいただけるのが何よりですね。本日はどうもありがとうございました。これから二十一世紀にむけて、明るい住みよいまちとするため市長さんにはこれからも頑張っていただきたいと思います。

笹野　ですから、福祉対策というのは、そういう自立を養うという考え方も入れなければなりませんね。

中路　昔からいう〝親方日の丸〟式で、大きいところにもたれかかっていれば何とかなるという甘い考えでは向上しないと思います。心構えのもち方を。いくら福祉といっても、それをしっかり与えながらやらないと大きなまちがいで、いくら福祉に力を注いでもだめだと思います。

市長　やはり、福祉についての考え方が問題になってくる訳ですね。福祉といえば、ただ物を与えたり、金を出したりすることではなくして、精神面、心の問題という面から、思いやり、いたわり、温かさとかをもいます。

中路　私よりもっと若い方はどういう風に考えているかわからないですが、やっぱり、自立というしっかりした自覚をもたないと、だらだらではねえ。

市長　まあ、健康で働ける人は要求する福祉ではなく、与える福祉という立場に立って、そこに喜びを感じるということが、福祉の出発点ではなかろうかと思うのですが。

笹野　藤田先生どうでしょう。他都市に比べて。

藤田　地域の結びつきが、大都市近郊において非常に少ない。これは都市生活で〝隣りは何をする人ぞ〟という生き方はあるわけですが。自分の成長、自分のこのまちでの過ごし方と、また文化的なものをつくっているのですが。

笹野　最後に、将来の夢というか、未来に対する希望というか、何かありましたら。

中路　私は、このまちにもう一度行ってみたいなという気持になるようなまちになってほしいですね。そして、全国的に〝向日市〟の名を広めたいですね。いい意味でね。

笹野　藤田先生はどうでしょう。

藤田　前にも話しましたが、市民のみんなが一緒に知恵を出しあって、小さいことを丹念に積み重ねていくことが大切です。他のまちにはちょっと真似のできないことでして、このまちでは可能だと思います。

市長　住みよいまちにするには、生産と消費の両面がうまく調和しなければ基盤が弱いわけです。まあ財政的な問題はあるにしても、自分たちのふるさとだから、何とかみんなに喜んでもらえるようなまちにしたいと思っているんですけど。

笹野　そうですね。市民に喜んでいただけるのが何よりですね。本日はどうもありがとうございました。これから二十一世紀にむけて、明るい住みよいまちとするため市長さんにはこれからも頑張っていただきたいと思います。

市制施行十周年を迎え 将来への限りない希望をこめて

市議会議長　建口　清

市制施行十周年を迎えるにあたり、市議会を代表して、一言ごあいさつを申しあげます。

さて、本市は、昭和四十七年十月に三万市制特例法により、市制を施行し、ここに満十年を迎えたのでありますが、今や人口は五万人を超え、大都市近郊都市として着実に発展をいたしました。

かえりみますれば、この十年間に社会経済情勢は、高度成長から低成長へと転換いたし、一方、国に代わって地方が次の時代を担う「地方の時代」と呼ばれる時代へと明けていったのであります。

このような状況の中にあって、本市は、近代都市としての形態を備え、多様化する住民要求に応えるため、公共下水道、街路整備など基盤整備に着手いたしました。

また、老人福祉センター、市民会館、中央公民館をはじめ四つの地区公民館建設、さらには消防庁舎の建設などの福祉・文化施設の充実、とくに教育施設は、市制施行当時において、市内に小学校三校、中学校一校であったものが、今日、小学校六校、中学校三校を数えるに至ったのであります。

このような諸施設の充実と輝かしい発展は、初代中山市長、民秋現市長のご努力をはじめ、関係各方面のご懇切なご指導と市民各位の力強いご支援ご協力の成果にほかならないと存じ、ここに深く敬意を表するものであります。今後におきましても、駅前整備、上下水道事業の推進など、数多くの問題が山積しております。

私ども市議会といたしましても、このたびの十周年を迎えるにあたり、古い歴史と伝統のある我が向日市の明日を考えるとき、その責任の重大さを痛感いたしますが、市民各位とともに一層精進しなければならないと存じます。

終わりにあたり、市民各位のますますのご健勝と向日市の将来への限りない希望をこめて、私のごあいさつとさせていただきます。

50ねん

▽4月　市初のセーフティクラブが発足（物集女町坂本地区）▽6月　第6保育所開所／消費生活モニター制度スタート▽7月　大型ゴミ無料収集スタート

51ねん

▽2月　公共下水道事業に着手▽4月　第5向陽小学校・第4乙訓中学校・向陽高校開校／民秋市政スタート／交通指導員制度スタート▽11月　婦人模擬議会を開催▽12月　老人セーフティクラブ発足（森本町）

52ねん

▽2月　規格葬儀スタート▽4月　昼間里親制度スタート／市長と小学生の座談会▽7月　学校公園〝憩いの広場〟オープン（第2向陽小学校）▽9月　市長と話す日を設置▽10月　第1回「商工まつり」を開催

56ねん

▽3月　上植野公民館オープン▽4月　鶏冠井公民館オープン▽5月　福祉タクシー制度スタート／4歳児を対象に「歯みがき教室」スタート▽8月　消防新庁舎オープン／たそがれ市民相談を開催（阪急東向日駅前で）▽11月　国際障害者年記念「向日市民のつどい」を開催／上植野浄水場起工式

57ねん

▽2月　ねたきり老人を対象に「訪問看護指導員制度」スタート▽3月　乙訓中学校事務組合解散▽4月　市内中学校が市立中学校として名称を変更／寺戸中学校開校／寺戸公民館オープン▽9月　自転車等の秩序に関する条例スタート（放置自転車対策）

5

▽1月　茶のみ友達相談所を開設▽4月　第6向陽小学校開校／1歳6か月児健診スタート▽7月　市政モニター制度スタート／ことば・きこえの教室開級（第6向陽小学校）▽11月　市のうた・音頭を制定

◆この十年、みなさんにとってはどんな年でしたか。市では、この十年を踏台に、さらに住みよいまちづくりをめざしていきます。今後とも、みなさんのご協力をお願いします。